

平成28年 8月29日

リニア中央新幹線に関する質問書に対する回答

阿智村リニア対策委員会

会長 稲垣 孝光 様

東海旅客鉄道株式会社

平成28年7月12日付けで阿智村リニア対策委員会よりいただいた「リニア中央新幹線整備に関する質問書について（お願い）」に対して、以下の通り回答させていただきます。

質問① 住民との合意について 別紙のとおり

質問② 協定書の締結について 別紙のとおり

質問③ 発生土の処理及び工事用車輛の削減について 別紙のとおり

質問④ 工事用道路について 別紙のとおり

質問⑤ 住民生活や観光客への配慮について 別紙のとおり

質問⑥ 水資源について 別紙のとおり

質問⑦ 環境保全について 別紙のとおり

質問⑧ 損害に対する補償について 別紙のとおり

質問⑨ その他の質問事項 別紙のとおり

【別紙】阿智村リニア対策委員会からの質問書への回答

質問① 住民との合意について

質問② 協定書の締結について

質問③ 発生土の処理及び工事用車輛の削減について

質問④ 工事用道路について

質問⑤ 住民生活や観光客への配慮について

質問⑥ 水資源について

質問⑦ 環境保全について

質問⑧ 損害に対する補償について

質問⑨ その他の質問事項

1

質問① 住民との合意について

①－1 現在までの阿智村や議会、住民の要望に対しての貴社の説明やご回答から阿智村住民は「地元住民の理解、合意ができなければJR東海は工事着工しない」と考えていますが、それに相違ありませんか。

⇒地元の住民の方々にご説明し、ご理解を頂きながら進めていく方針に変わりはありません。

質問① 住民との合意について

①ー2 工事を進めるにあたり、阿智村において地元の協議調整が必要な事項や時期について、貴社の計画・考えを具体的にお示し下さい。また、現在までに協議調整された事項があれば、どのような内容であるのか改めてお示し下さい。

⇒今後の阿智村との協議調整内容のうち、以下の3点については、今後の調査に時間を要するため、早急に整理したいと考えております。

1. 工事用車両の運行に伴う村道1-20号線拡幅の調整
 - ・現地の調査を行ったうえで、改良案を策定し、道路管理者や地元の住民の方々と調整させていただきます。
2. 発生土置き場候補地の調査
 - ・発生土置き場候補地を提示いただいた後、各候補地の具体的な調査を行ってまいります。
3. 水資源事後調査計画に関わる調整
 - ・事後調査実施箇所を整理し、村と調整した後、地元の住民の方々にご説明いたします。

3

質問① 住民との合意について

①ー3 「住民の理解や合意」は事業者、説明者である貴社ではなく「事業による影響が予測され、事業者より説明を受ける側である住民の認識、判断によるもの」と私達は理解しています。
平成28年4月27日の大鹿村説明会でのご発言について説明下さい。また、住民からの合意が得られたとの判断する基準をお示し下さい。

⇒地元の住民の方々にご説明し、ご理解を頂きながら進めていく方針に変わりはありませんが、計画を進めていくにあたって責任を持つのは、事業者である弊社だと認識しております。

4

質問② 協定書の締結について

②-1 リニア工事着工前に工事用道路、工事用車両の運行に関わるだけでなく現在の環境がリニア関連工事によって発生が予測される悪影響への軽減、代替処理について、全国一律の基準対応ではなく当該地域への影響度を加味した協定書の締結が必要と考えますが、貴社の考えをお示し下さい。

②-3 発生土運搬の大型ダンプ通行に伴う騒音・振動や工事関連の影響による諸問題についての生活環境保全のための協定を締結する必要があると考えていますが、貴社の考えをお示し下さい。

⇒工事等によって予測される環境影響については、既に環境影響評価書（長野県）に記載されており、改めて協定書等を締結することは考えておりません。

⇒また清内路地区が清浄かつ静穏な地域であることは承知しており、環境影響評価書の大気質などの項目では事業の影響度を用いた評価を行っております。なお、工事用車両の運行に際しては、環境保全措置を確実に実施することで、環境負荷の低減に努めます。

⇒なお、環境影響評価書で具体化されていない、工事用車両の規格や通行時間、一日当たりの通行台数などについては、文書等を取り交わす事を含め、必要に応じて阿智村と調整します。

5

質問② 協定書の締結について

②-2 昼神温泉や四季豊かな自然は、阿智村にとって大切な地方創生の観光資源である。この観光資源の保全について実効力のある協定を締結することを必要と考えますが、貴社の考えをお示し下さい。

⇒阿智村にとって、観光事業が非常に重要であることは承知しております。そのため、昼神温泉等の観光資源への影響をできる限り回避・低減するため、工事用車両の運行計画等について配慮していきたいと考えております。

⇒なお、工事用車両の運行計画を決めるにあたり、工事用車両の規格や通行時間、一日当たりの通行台数などについては、文書等を取り交わす事を含め、必要に応じて阿智村と調整します。

6

質問③ 発生土の処理及び工事用車輛の削減について

③-1 発生土置き場の崩壊、流出に対する対策と、施工（造成）基準を具体的にお示し下さい。

- ⇒基本的には、盛土の崩壊や流出が発生しないよう、関係する技術基準等に基づいて設計・施工を行います。
- ⇒具体的な防災対策等については、発生土置き場の場所により異なるため、候補地の詳細な設計を行う段階で検討してまいります。
- ⇒設計図ができあがった段階で地権者・地元関係者の方にご説明いたします。

③-2 萩の平坑口付近は急峻な地形の上流域ですが、発生土の仮置きヤードをどのように考えていますか。

- ⇒村道1-20号線からの進入路を含め、発生土の仮置きヤードについて、現段階で具体的なことは決まっておりませんが、工事ヤードや仮置きヤードについても関係する技術基準に基づいて設計・施工していきます。

7

質問③ 発生土の処理及び工事用車輛の削減について

③-3 村道1-20号線や国道256号などを利用する住民の間で、発生土運搬用の大型ダンプの通行は大きな脅威と感じられ不安を感じている住民が多くいます。発生土運搬のリスク軽減のために、村道1-20号線、黒川上流域での発生土置き場（仮置き、本置き場）の可能性の再検討、再調査をお願いしたいが貴社の考えをお示し下さい。

- ⇒まずは窓口である長野県を通じて具体的な発生土置き場候補地（村道1-20号線沿線などを含む）を提案していただくのが基本だと考えております。弊社に候補地の調査から依頼したいとの話があれば、県を通じて提案いただいた後、村と協議させていただきます。
- ⇒弊社としても現場近くに発生土置き場があることは、環境影響低減の面から有利であると考えております。

8

質問③ 発生土の処理及び工事用車輛の削減について

③-4 日曜日、お盆、正月以外は工事を行う計画のようだが、観光シーズン中の土日、祝祭日に観光客が集中し混雑している状況にあり、計画通りの運行は難しいと考えますが、貴社の考えをお示し下さい。

⇒今後、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、観光シーズン中など、観光客の多い時期の対策も含め、工事用車両の運行に関する具体的な計画を行ってまいります。

③-5 沿線住民の負担軽減を図るための発生土運搬の平準化についてどのようにお考えか。またそのためには、工期が延びる、1日の工事時間が長くなることが予想されるが、平準化の方法や工期についてお示し下さい。

⇒今後、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、沿線住民の安全対策も含め、工事用車両の運行に関する具体的な計画を行ってまいります。

9

質問④ 工事用道路について

④-1 萩の平坑口から国道256号までの間は急峻な地形でカーブの多い狭隘な道路です。資機材、生コン搬入の工事用専用道路を強く希望すると共に現道改良の場合は、安全確保のため全線2車線化が必要かと考えますが、貴社の考えをお示し下さい。

④-2 発生土の運搬ルートに関し合理性や効率ではなく、安全安心の視点から考察いただけますよう望みます。1-20号線利用だけでなく別ルートの再検討が必要と考えますが、貴社の考えをお示し下さい。

⇒工事用車両の運行については、既存の道路を使わせていただくことを前提としておりますが、村道1-20号線は、狭隘な箇所が多く、工事用車両の通行も難しい箇所が存在します。そのような箇所については、弊社が拡幅したり、待避所を設置する方向で道路管理者と協議させていただきます。

⇒工事用専用道路の設置については検討したものの現実的には難しいこと、全線2車線化については、地形上、物理的に困難な箇所が多く存在することから難しいと考えています。

⇒一方で安全を確保するために、ガードレールや誘導員の設置など必要な安全対策は確実に実施していきたいと考えております。

質問④ 工事用道路について

④－3 村道1-20号線については、大型車輛が通行することが可能かどうかの調査、測量、工事が必要だと思うが、工事中の修繕や工事後の復旧までは全て貴社の責任で対応をいただけるという認識でよろしいですか。また、道路構造上の基準についてお示し下さい。

⇒村道1-20号線の事前の調査に関しては、弊社にて実施させていただきます。

⇒弊社の工事用車両が起因にて発生した工事中の道路損傷については、弊社にて修繕いたします。具体的には工事発注後、請負会社が決定した後に詳細計画を行っていきます。

⇒工事後に原形復旧するかは、道路管理者と協議の上、決定します。

⇒道路構造上の適用基準については、道路規格により異なることから道路管理者と協議の上、決定します。

⇒村道1-20号線については、改良の有無に関わらず、供用後も含めて道路管理者に管理していただくことを考えています。

④－4 萩の平坑口を非常用進入口として使用することですが、その使用頻度と維持管理について具体的にお示し下さい。

⇒非常口は、営業開始後の鉄道施設のメンテナンスを行うための出入り口となります。なお、万が一の異常時における避難等に使用するための出入り口としても活用しますが、極めて稀なケースであると考えております。

11

質問⑤ 住民生活や観光客への配慮について

⑤－1 萩の平坑口(非常口)の建設が予定されている清内路地区は、村内8地区の中でも最もUターンの多い人口増加が期待されている地区です。大型車輛通過台数が現状の200%相当になり、その状況が数年間連続した場合の影響を懸念しますがどのように考えますか。

⇒工事車両の運行計画等、可能な限り配慮させていただきます。今後、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、具体的な計画を行ってまいります。

⑤－2 阿智村は昼神温泉を始めとし、花桃、スキー場、日本一の星空等により、年間130万人の観光客を集客しています。阿智村の主要産業である観光事業への影響についてどのように考えますか。

⑤－3 阿智村には多くの観光客が訪れることから観光客に対する十分な安全対策が必要と考えます。仮にリニア工事の関係で不快な思いをし、口コミ等により風評が広まると回復には長い時間がかかります。その点も踏まえ観光客に対する安全対策についてどのように取り組まれますか。

⇒観光事業に対する影響を回避・低減することは、私どもとしても重要なことだと認識しております。今後、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、具体的な計画を行ってまいります。

⇒一方で鉄道会社として、観光地の魅力を紹介する等、地元自治体や観光施設、旅行会社と連携した観光客誘致の取り組み等についても検討していきます。

質問⑤ 住民生活や観光客への配慮について

⑤-4 仮に発生土を積載した大型ダンプが昼神温泉を通過する場合や村道1-20号線を通行する場合、歩道の確保やガードレール、ポール、カーブミラー、そして信号機の設置など安全施策は必要であると考えられるが、具体的な安全策についてお示し下さい。

⑤-5 村内の道路を大型ダンプが多く通行することで、強く危惧されるのが交通事故の発生である。特に被害が心配される高齢者や子どもなど交通弱者を守る具体的な対策についてお示し下さい。

⇒工事で使用する道路における通学路等の安全対策として、必要によりガードレールやカーブミラーなどの安全設備の設置、安全な歩行ルート確保、交通誘導員の配置などを考えております。今後、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、具体的な計画を行ってまいります。

⑤-6 工事期間のうち、路面凍結や除雪作業時の交通渋滞が発生する冬期に大型ダンプが絡む交通事故を心配する住民の声があります。冬期における安全対策をお示し下さい。

⇒工事用車両の運行に関しては交通マナーを遵守させることはもとより、冬期の通行に関しては、今後、道路管理者等と協議、調整の上、実施してまいります。

13

質問⑥ 水資源について

⑥-1 山梨実験線近隣での河川水枯れ、地下水枯渇があると聞いている。水資源の事後調査は、工事前、工事中、工事後行うとしているが、阿智村ではどこで、どのように行うのか具体的にお示し下さい。また、事後調査の工事後3年間の根拠について改めてお示し下さい。

⇒事後調査及びモニタリングについては、今後、具体的な計画を策定した後、阿智村及び地元の住民の方々にご説明いたします。

⇒事後調査の工事後3年間については、最新の山岳トンネルの評価書事例であり、かつ路線近傍である三遠南信自動車道青崩峠の評価書を参考に3年間4季の調査を基本としておりますが、状況に応じ、調査期間や頻度を増やすことも検討していきます。

⑥-2 河川の減水、異常出水による被害の基準判断は、何をもって決めるのか具体的にお示し下さい。

⇒各地点における事後調査やモニタリング、工事中の状況や周辺住民からの申し出など、幅広く情報収集させていただきます。

14

質問⑦ 環境保全について

⑦-1 貴社としてリニア工事について地元住民に配慮、留意していることは何ですか。

⑦-2 阿智村への配慮や留意点は何ですか。また、配慮、留意する事項についての軽減策や代替案を具体的にお示し下さい。

⇒工事用車両の運行による生活環境・自然環境への影響を低減させることが、最も重要だと考えております。

⇒非常口に隣接する村道1-20号線をはじめとする道路は、地元の住民の方々にとって、重要な道路であることは認識しております。

⇒工事の実施に先立っては十分に検討を行い、必要によって安全対策を実施し、現在の生活環境を極力維持出来るよう、配慮してまいります。

⇒なお、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、工事用車両の運行に関する具体的な計画を行ってまいります。

⇒またその内容については、環境保全計画書を作成し、長野県へ報告するとともに、地元の住民の方々には工事説明会で詳しく説明します。

15

質問⑦ 環境保全について

⑦-3 リニア工事に関して阿智村が被る環境への悪影響はどんなことが考えられるか具体的にお示し下さい。

⑦-4 悪影響が出た時の責任対応とリニア工事との因果関係についての調査はどこがするのか具体的にお示し下さい。

⑦-5 発生土の運搬に伴う自然環境、居住環境、地域経済等への悪影響回避のために現在の運搬計画以外の代替案等の検討はされていますか。

⇒工事用車両の運行による生活環境・自然環境への影響を低減させることが、最も重要だと考えております。

⇒弊社の事業が起因したものにより何らかの悪影響が出た場合は、事実関係をしっかりと調査してまいります。

⇒非常口に隣接する村道1-20号線をはじめとする道路は、地元住民の方々にとって、重要な道路であることは認識しておりますが、工事用車両の運行につきましては、既存の道路を活用させていただくことで考えております。

⇒工事用車両の通行が困難な場所や狭隘な箇所については、必要により拡幅、待避所を設けるなど安全対策を実施することを考えています。今後、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、具体的な計画を行ってまいります。¹⁶

質問⑧ 損害に対する補償について

⑧-1 昨年の学習会において、「水の枯渇について補償の考え方は非常に難しい。国が行ってきた公共工事の基準でやっていく事が公平で適正な補償である。また、万が一何かあった時の補償については必要であれば、公共補償に基づいて文書を残すことはできる。」と説明されたが、事後調査終了後や運用開始後に水の枯渇等が生じた場合も同様の補償の対応は可能ですか。

⇒工事による水資源への影響を確認するため、事後調査及びモニタリングを実施し、周辺環境への影響を確認します。

⇒その中で減水・渇水などの兆候が認められた場合、応急対策として給水車を手配するなど地元の住民の皆様の生活に支障をきたさない事を第一とし、対策を実施します。

⇒万が一補償が必要な場合は、「公共事業に係る工事の施行に起因する水枯渇等により生ずる損害等に係る事務処理について」(中央用地対策連絡協議会理事会決定)に基づき補償いたします。

⑧-2 地震、豪雨等自然災害により隣地に影響を与えた場合の責任の判断基準についてお示し下さい。

⇒災害は様々な状況に応じて発生することから、現時点で具体的な基準をお示しすることは出来ませんが、弊社の事業で生じた損害については因果関係、その状況を調査し対応を行っていきます。

17

質問⑧ 損害に対する補償について

⑧-3 以前より「観光業に対する補償は考えていない」「経済損失に関するモニタリングは実施する考えはない。また、手法は持ち合わせていない」と説明されているが、万が一工事に起因して昼神温泉等の観光産業が重大な損害を被ったとしても貴社としては補償を一切行わない考えですか。

⑧-4 リニア工事と観光事業に関わる影響や因果関係について、何を持って判断されますか。

⇒現段階において、工事中は観光事業への影響をできる限り低減し、影響が出ないように配慮してまいります。なお、今後、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、具体的な計画を行ってまいります。

⇒工事の因果関係、影響等を調査する予定はありません。

⑧-5 リニア工事との因果関係の調査について貴社で行う用意はありますか。行わない場合、村が必要と判断し実施した調査の費用負担はどのようにお考えですか。

⇒何らかの損害または申し出があった場合について、まずはその状況についてお話を伺わせていただきます。その上で、必要に応じ、対応を検討いたします。

18

質問⑨ その他の質問事項について

⑨ー1 阿智村では自治会や地区振興協議会が中心となって、住民が住み続けたいと思える集落や地区の将来像を掲げ、その実現に向けた取り組みを行っている。その結果、村内の各地で成果が生まれ、I・Uターン者が移り住み、将来人口増加を期待できる状況にもある。阿智村の将来を考えた場合、発生土の運搬が各地区の地区計画や振興事業の阻害要因とならないように強く要望するが、貴社の考えをお示し下さい。

⇒発生土の運搬が、各地区の地区計画や振興事業の阻害要因となるとは考えておりません。今後、発生土置き場、運行ルートが具体化した段階で、阿智村と調整の上、工事説明会でご説明いたします。

⑨ー2 阿智村村民がリニア工事により被るリスクに対し、貴社として阿智村に対しどのような協力、支援ができるのか具体的にお示し下さい。

⇒工事用車両の運行による生活環境・自然環境への影響を低減させることが、最も重要だと考えております。なお、工事用車両の運行に際しては、交通マナーを遵守させることはもとより、環境保全措置を確実に実施し、環境負荷の低減に努めます。

⇒工事用車両運行にあたっては、村道1-20号線の一部拡幅、必要によりガードレールやカーブミラーなどの安全設備の設置、安全な歩行ルートの確保などを考えております。また、工事用車両の通行時間、一日当たりの通行台数など、¹⁹地元に配慮した計画を行っていくことを考えております。

質問⑨ その他の質問事項について

⑨ー3 貴社におかれては今回のリニア中央新幹線整備計画について、発表した工期と総事業費を不動のものとし、それを理由に住民の要望や代替案を排除してきたと思われる経過があったと考えます。しかし今回、政府は本整備計画に対して財政投融資を活用し3兆円規模の融資をすると発表しました。これにより当初の計画より貸付金利が約1/10と大幅なJRの負担軽減が図られることになったと認識します。

財政投融資を受けることによって生じる財政的余裕は、住民の要望や代替案に対して反映されるものと考えて良いでしょうか。

⇒事業の円滑な推進にあたっては、地元のご理解とご協力を得ることが重要であると認識しております。今後も地元のご協力をいただけるよう、着実に取り組んでまいります。

⇒財政投融資に関する具体的な内容は決まっておりませんので、現段階で申し上げることはありません。